

NPO 京都コミュニティ放送
第 97 回 番組審議会 議事録

開催日時：2015 年 12 月 8 日（火）10：00～11：30

会 場：京都市中京区三条烏丸 烏丸ビル 2F Flag 三条

委員総数：7 人 出席：6 人 欠席：1 人

出席委員：山本時子 中村正 福井秀彦 岡本卓也 松浦さと子 竹下清

欠席委員：ジェフ・パークランド

局側委員：町田寿二、松岡千鶴

（順不同敬称略）

ゲスト： 認定NPO法人アンビシャス理事長 松岡幸子さん

審議番組： 「アンビシャスの『考えよう！ペットと防災』」

（第 1 金曜日 10 時～放送の 12 分番組）

災害が起きた時にペットと一緒に避難するために、日ごろから飼い主が心がけておく“ココロ・モノ・ワザ”について一緒に考える番組。

制作者は「人と動物が共生するやさしい社会づくり」を目指す認定NPO法人アンビシャス。

2015 年 11 月放送の番組を聞いて審議に入った。

■ 番組審議

冒頭に制作者の松岡幸子さんから番組の説明があった。

- ・ 番組を放送してみてラジオカフェの認知度の高さに驚いた。
- ・ 番組は動画配信もしている所以他府県に広がっている。
- ・ ペットを飼っている人は人口の約 2 割。しかし日本は、「しつけ」と「かわいがる」事の区別が出来ていない。
- ・ 番組を通じて「しつけられたペット」の地位向上を目指しながら楽しく放送したい。

審議委員の意見

- ・ 自身も地域の自主防災会の会長をしているが、来年は防災訓練の中で「ペットの避難」を取り入れたい。
- ・ 12 分間、飽きることなく聴くことが出来た。番組内容の切り口が斬新だと感じた。
- ・ せっかくスタジオに犬がいるなら犬の存在が聴いている人にもわかる工夫があると良い。例えば犬がしゃべる（笑）など。
- ・ 今回の番組ゲストが住んでいる地域でペットを飼っている人が 17% という数字はインパクトがある。人の場合人口の 15% 以上が高齢者だと高齢化社会ではなく高齢社会だから。多文化共生、ペットも人間と共に生き伸びるという考え方は勉強になった。
- ・ 自分自身は動物が好きではないが、番組を聞いて大切な命だと思った。
- ・ 有意義な活動だと思う。今は知ってもらうことが目的だが、次の段階では具体的に何かを進める必要があるのではないか。
- ・ 動画の中でゲストの顔にマイクが被っていたのが気になった。
- ・ 番組の構成は良かったが、話をしている時の BGM は歌詞が入らない方が良い。司会が少し固かった。硬い話題を柔らかく伝えることが司会の役割だと思う。
- ・ 番組の話題はまだまだあるのか？
- ・ 今はまだ人間優先の考え方が主なので、話題は尽きない。（松岡幸子さん）

- ・何かを排除しようとするのではなく、コミュニティを作ろうという考え方は大切だと感じた。
- ・人とコミュニケーションをとる役割をペットが、担うことが出来るのではないか。
- ・常日頃はドッグセラピー活動を行っている。年間約 150 ケ所訪問する。日本と比べると外国は制度が整っている。(松岡幸子さん)
- ・ペットをちゃんとしつける力は、周りを見る力があるということの裏付け。人を育てる力も高めるはずだ。
- ・「ペットを捨てない」「正しく飼う」ということが大切。(松岡幸子さん)
- ・命の尊厳に関わる大切な番組だと感じた。
- ・曲のブレイクタイムがあった方が良い。或いは犬との語らいの時間でも良い。
- ・今後の番組ゲストの予定は？
- ・ペットのマッサージをする人や行政の担当者にも来てもらおうつもり。(松岡幸子さん)
- ・子どもをゲストに呼んだら良い。
- ・NPOの底力を感じた番組だ。

以上で審議は終了した。

この審議会の議事録は 2015 年 12 月 22 日から事務所で閲覧できるようにした。

この審議会の議事録は 2015 年 12 月 22 日からホームページで公開した。